

紅葉見頃 クリスマスに？

地球温暖化への危機感が世界で高まる中、日本でも大雨や猛暑日が増えるなどの異変が生じている。日本の平均気温は世界平均を上回るペースで上昇しており、専門家からは「2050年には京都の紅葉の見ごろがクリスマスの時期になる」との予測も出ている。



12月中旬になっても鮮やかな黄色をみせる御堂筋のイチョウ
16日、大阪市北区（門井聡撮影）

「東京で最高気温40度超、真夏日連続50日以上、熱中症死者6500人」
「猛暑が10月中旬まで続き、京都の紅葉の見ごろはクリスマスの時期に」
これらは、現在のペースで温室効果ガスが増え続けた場合、専門家が予測する50年の日本の状況だ。

国立環境研究所の江守正多・気候変動リスク評価研究室長は「現在より夏が1カ月長くなる」と予測。さらに大気中の水蒸気量が増えることで勢力が強くなる「スーパー台風」が頻発するといふ。

2050年京都 進む温暖化、専門家予測

「昨年8月には、広島市で観測史上最高となる1時間降水量101.1ミリを記録し、土砂災害で70人以上が死亡した。」
江守室長は「大雨が降りやすくなり、水害は増える。さらに怖いのは南極の水が解けて世界的に海面が40センチも上昇すること」と警鐘を鳴らす。

気象庁によると、14年の世界の年平均気温は、1981年から2010年までの平均基準と比べ、プラス0.27度となり統計開始以降最高となった。日本ではこの年はプラス0.14度だったが、統計開始以降でみると100年に約1.14度のペースで上昇しており、このペースは世界の0.7度を上回っている。

世界気象機関（WMO）のジャロー事務局長は声明